語の漢字仮名並列表記は有用か

——語彙教育とのかかわりにおいて——

大　島　中　正

1. は　じ　め　に

日本語の表記の特徴の一つとして，個々の語の表記に幾通りかの表記法が存在することをあげることができる。ある語を漢字で書くか仮名で書くか，漢字で書くとすればどの漢字を用いるか，仮名で書くとすれば平仮名か片仮名か，送り仮名を必要とする場合にはそれをどこから送るか，などといったことに表記主体の表記意識が働く。佐竹秀雄（1980）は次の5種類の表記意識をあげている。

A　正誤に関する意識

B　標準化に関する意識

C　表記効果に関する意識

D　表記効率に関する意識

E　その他（好悪・美醜など）

例えば次の①～⑤の下線部は，いずれもCの「表記効果に関する意識」が働いた例である。特殊な表記形式によってなんらかの表記効果をあげようとしているのである。

① 火と言語の使用が，人間を他の動物から区別したことは衆目の見るところである。生涯で最大のイベントである愛の告白ですら言語によっている。情報化社会で生きて行くために最も強力な武器となるのも言語である。コンピュータも言語。広告コピーも言語。シンガー・ソングライターも劇画の作家達もみんな言語，<u>ゲンゴ</u>，<u>げんご</u>，<u>GENGO</u>……。（『新訂版　当節おもしろ言語学』の「はしがき」）

② 野菜は薬より“<u>クスリ</u>”だ（Vegeta No. 26 1990年6月号）

③ 私がお親しくしている芦屋病院の院長夫人が，二子さんのご縁談を持って来

て下さったの，そうしたら相子さんったら，いろいろとお縁談(はなし)がございますので，その方面のことは私が一切を取り仕切ってお承りすることになっておりますと，横から出て来て，（略）（華麗なる一族（上）　33ページ）

④　ああ“笑悲税”（1989年10月２日　読売新聞夕刊）

⑤「実物と像の間におけるフィードバックを経て，それは直観像とか，残像というより，想像心象に等しい特性をもつものに転化していると言えるでしょう」

「そうぞうしんしょう？」

またまた新しい言葉の登場に，味沢は面喰った。（野性の証明　273ページ）

①と②は，一般的・標準的表記形式（①は「言語」，②は「薬」）と非標準的表記形式とを同一文中に併せ用い，読み手に両者を対照させることによって，表現効果をあげることをねらったものである。②は，「薬」と「クスリ」といった書き分けによって多義語 /クスリ/ の原義と転義とを表そうとしたものである。表記形式を変えることによって特定の文脈における語義を指定しようとする点では，③の「お縁談(はなし)」に通じるところがある。筆者は以前にこのようなルビ付き表記形式を「漢字仮名並列表記形式（以後，略して「並列表記」とよぶ。）」としてとらえ，表記主体の表記目的を基準にその分類を試みたことがある[1]。 /オハナシ/ という語を表記するのに「お話」とせずに「お縁談(はなし)」とすることによって，この文脈における /オハナシ/ の語義が特定化される。①～⑤の中で最も一般性・標準性に欠けるのは④の「笑悲税」である。これは懸文字とよばれるものである。玉村文郎（1983）には，「ルビ付きは表記の二重性という点で，懸文字と連続するものである。ただ，懸文字が潜在的であるのに対して，ルビ形式は顕在的であるという点が異なるのである。」[2] という指摘がある。⑤は，語というよりはむしろ文の表記の問題である。意味不明の言葉を耳にして問い返している文であるから，漢字で「想像心象？」と表記するわけにはいかない。

日本語の没正書法性は，正書法の確立している言語を母語とする者が日本語を学ぶときに，ある種の抵抗感や異和感を覚えるものである。日本人にとっても，この没正書法性が同一表記主体が同一文章中で不用意にも同一の語を別表記にしてしまったり，ある語をどう表記すればよいか苦慮しなければならなかったりする原因になるのである。ところが，その反面，ある漢字を忘れてしまったり記憶が不確かであったりする

場合には，一般性・標準性から逸脱はするものの，とにかく別の文字（たいていの場合は片仮名であろう。）で間に合わせることも可能になるのである。さらには，先にあげた諸例のごとく，表記効果をあげるために没正書法性が積極的に利用されることもあるのである。

本稿では，どんな性格の語を表記する際に並列表記が採用されるのかを，他の直列表記のことをも念頭に置きつつ考察し，並列表記が日本語を母語とする者ばかりでなく日本語のできる（或いは日本語を学習中の）外国人にとっても有用か否か，私見を述べたい。

なお，並列表記については大島中正（1989）を参照していただければ幸いである。なぜ，「振り仮名付き表記形式」とか「ルビ付き表記形式」とよばずに「並列表記」とよぶのか。その理由のみを簡単に述べておこう。本文中の漢字表記部分に対して，「振り仮名」や「ルビ」のような特定の名称がないことからも分かるように，従来は「振り仮名」とか「ルビ」とよばれる仮名表記部分について考察されることがほとんどで，本文中の漢字表記部分についてとりあげられることは，あまりなかったのではないかと思う。仮名表記部分と同様に漢字表記部分も考察の対象とする必要がある。漢字表記部分と仮名表記部分の両者を対等にとらえることによってはじめて，いわゆる「ルビ」のないものを直列表記としてとらえ直すことができ，先に例示したような特殊な直列表記と並列表記との連続性をもとらえることができるようになるものと考える。

2. 同表記別語の並列表記

どの言語においても語を文字によって視覚化する場合には，語とその表記形式との間に1対1の対応関係が成り立つことが理想的である。しかし，日本語においては，前節で述べたごとく没正書法性があり，しかも本節でとりあげるような同表記別語が存在するのである。日本語を母語とする者と日本語のできる外国人との別を問わず，没正書法性は書き手を悩ませ，同表記別語の存在は読み手を迷わせる。

次の⑥～⑩に見える並列表記は，ある語を漢字と仮名の2種類の文字で並記することによって，その語の標準的・一般的な表記形式を示し，同時にその語形を指定しようとしたものである。

⑥　「どないしたもんやろ。村中に知れたら大事(おおごと)やで。ウメはすぐに親許へ返せや。話はそれからや」（紀ノ川　102ページ）

⑦　「春水も種彦も，あいつらは自分の作物(さくぶつ)がすべてなんだ。（略）」（名主の裔　209ページ）

⑧　「（略）この節はお寺まいりにも大変な日日(ひにち)がかかりましょ。（略）」（三婆　192ページ）

⑨　「（略）江戸が東京(とうけい)に変わってこっち，ろくなことがない」（名主の裔　112ページ）

⑩　「兄(あに)さんはまだ東京やてなあ」（紀ノ川　196ページ）

表記主体が，ここに例示したような並列表記を採用した過程を，/オーゴト/ の場合を例にして再現してみよう。

〈1〉　表記したい語は /オーゴト/ である。

↓

〈2〉　/オーゴト/ の表記形式としては「おおごと」，「オーゴト」，「大事」などが考えられる。

↓

〈3〉　「おおごと」を採用すると，前の文節との切れ目が分かりにくくなって読みづらい。

↓

〈4〉　「オーゴト」か「大事」であると，両者ともに文節分割の機能があってよい。

↓

〈5〉　特別な表記効果をあげることを狙っているわけではないので片仮名表記「オーゴト」を採用する必要はない。

↓

〈6〉　したがって，一般的・標準的な表記「大事」を採用する。

↓

〈7〉　ところが，「大事」は別語 /ダイジ/ を表記するのにも採用されうる表記である。

↓

〈8〉 よって，並列表記「大事（おおごと）」を採用する。

⑦の「作物」は /サクモツ/・/サクブツ/ を表記するために，⑧の「日日」は /ヒビ/・/ヒニチ/・/ニチニチ/ を表記するために，それぞれ採用されうる表記形式である。⑨の「東京」，⑩の「兄さん」についても同様のことが言える。しかし，⑥の「大事」，⑦の「作物」，⑧の「日日」は，日本語に習熟している人間ならば，共起語や文脈によってその語形を判別することができる。できなければならないと言ってよいかもしれない。もっとも「日日の努力が実を結んだ。」の「日日」などは /hibi/ とも /nicinici/ とも読めるが。⑩の「東京」は歴史的な知識がなければ /toV'kyoV'/ と読んでしまうであろう。⑩の「兄さん」も直列表記されている限りにおいては /niV'san/ としか読めないであろう。同じく同表記別語とは言っても，共起語や文脈を手がかりにして，その語形が特定できるものとそうでないものとがあるのである。

この種の並列表記は，漢字による語表記の限界を克服するためのものであると考えられる。

3. 方言，隠語などの並列表記

本節では，漢字表記になじまない性格の語（方言，隠語など）の並列表記をとりあげる。前節とは別種の，漢字による語表記の限界とその克服法とを見ることになろう。

⑪ 「えらいことになりそうなの。また戦争（せんそ）やろかいの」（紀ノ川　63ページ）

⑫ （略）阿呆な男やといはれましても，なんの返答（へんと）もござりませぬ。（おはん　19ページ）

⑬ 「いえ，もっと小さい（ちい）山のようでございますよし」（紀ノ川　21ページ）

⑭ 裏のおばはんの手（てま）借りて，名（なア）ばかりの宿替ではござりますが，畳も敷き，障子の目張りまで済ませますと，なにやら人の家らしう見えますのも，思へば不思議でござります。（おはん　80ページ）

⑮ 「ほんまよオ。あの籠（かんご）持った姿は，なんとも云えんのオ」（紀ノ川　84ページ）

⑯ 「ふん，見（み）える，見える」（紀ノ川　20ページ）

⑰ 「（略）ボ，僕，『東京ハンズ』が好きで，よう行きますから，要るもんあ

ったら買(こ)うてきます」（ベッドの思惑　251ページ）

⑱　（……こんなん，違う，話が違(もや)う）（ベッドの思惑　161ページ）

⑪の「戦争(せんそ)」の場合を例にして，方言の並列表記が採用される表記過程を示すと次のようになろうか。

〈1〉 表記したい語は /センソー/ の方言 /センソ/ である。

↓

〈2〉 /センソ/ の表記形式としては「せんそ」，「センソ」，「戦争」が考えられる。

↓

〈3〉 「せんそ」を採用すると，前の文節との切れ目が分かりにくくなって読みづらい。

↓

〈4〉 「センソ」を採用すると，前の文節との切れ目も分かってよい。

↓

〈5〉 ところが，「センソ」だけでは，その意味が分かりにくい。

↓

〈6〉 したがって，並列表記「戦争(せんそ)」を採用する。（並列表記を採用したため，仮名表記部分は片仮名表記にする必要がなくなり平仮名表記とする。）

⑪～⑱に見られる方言の語形は，標準語の語形と比べると長音節が短音節化したり（/seNsoV'/→/se Nso/）逆に短音節が長音節化したり（/te/→/teV'/），母音が交替したり（/mieru/→/meeru/）したものであるので，比較的容易にその標準語の語形と対応させることができる。そのため，並列表記を行うに際しても標準語を表記するのに用いられる漢字表記をそのまま用いることができるのである。

では，/ダチ/，/サテン/，/ジョウジ/，/ジュク/，/バイ/ や /シャブ/，/グル/，/スケ/，/ベベ/ などの隠語・俗語の類はどのように表記すればよいのであろうか。方言の表記の場合と同様，仮名表記のみでは，その意味が分かりにくいという問題がある。そこで適当な漢字表記を考えなければならないのであるが，⑪～⑱に見えるような語とは違って，その漢字表記がすぐに思いつかないものが多い。これが，この種の語を表記する際の問題点である。

⑲　「十八歳の時だったかな，同じクラブに勤める友達から『気持ち良くなるよ』って，シャブ（覚醒剤）を分けてもらったのは。（略）」（極道の妻たち　124ページ）

⑳　「ジョウジ（吉祥寺）の喫茶店よ。スナックまわってるうちに，悪乗りしちゃって，こんな所まで従いて来ちゃった」（人間の証明　61ページ）

㉑　吉祥寺や新宿のサテンでたむろしていた仲間たちが恋しい。（人間の証明　369ページ）

㉒　飯野三郎は，四十歳を少し越えたテキ屋で，少年の頃から商品販売一筋にやって来た男です。（塀の中の懲りない面々　221ページ）

㉓　その昭和五十年当時は，私は覚醒剤をやっていましたから，（略）（極道の恩返し　96ページ）

㉔　だからこそ，共謀者の競馬サークルの手口を見抜いて，（略）（極道の恩返し　226ページ）

㉕　「ヤロー！　その女，渡せィ！」（極道の妻たち　34ページ）

㉖　（略）ええ着物こさへたり，そりや金持になる積りやけになア。（略）（おはん　52ページ）

⑲～㉒の /ダチ/，/サテン/，/ジョウジ/，/ジュク/，/バイ/ といった語はいずれも略語であるから，例えば，/ダチ/ を漢字表記するならば，そのもとになる語 /トモダチ/ の漢字表記形「友達」の後項「達」を用いることも考えられなくはない。並列表記だと「達」，「茶店」，「祥寺」，「宿」，「売」ということになろう。しかし，これでは仮名表記部分が単に漢字表記部分の音形を指定していることになってしまう。/ダチ/ や /サテン/ や /バイ/ の意味を指定するには，「達」，「茶店」，「売」では不十分であって「友達」，「喫茶店」，「商品販売」といったもとになる語の漢字表記が必要になるのである。固有名詞である /ジョウジ/ や /ジュク/ についても同様のことが言える。㉓～㉖の /シャブ/，/グル/，/スケ/，/ベベ/ は，その意味を，それぞれの語に意味の上で共通する別語の漢字表記（「覚醒剤」，「共謀者」，「女」，「着物」）でもって指定している。

⑪～⑱に見られる方言，⑲～㉖の隠語・俗語の類の並列表記は，前節でとりあげた同表記別語の並列表記とは違って，漢字表記部分が仮名表記されている語の意味注釈

の手段として用いられていると考えることができる。このように考えると，⑳の「ジョウジ（吉祥寺）」や⑲の「シャブ（覚醒剤）」のような割り漢字付き（直列）表記形式と㉑の「吉祥寺」，㉓の「覚醒剤」といった並列表記とはその機能を等しくしていることになる。同表記別語の並列表記においては，仮名表記部分が漢字表記部分の語形を注釈するためにあり，方言，隠語・俗語の類の並列表記では，漢字表記部分が仮名表記部分の意味を注釈するためにあると対比的にとらえることができる。

4. 多義語の並列表記

本稿第1節に示した③の「お縁談」は /オハナシ/ という語のこの文脈における意味を特定化するものであった。本節ではこのタイプのものをとりあげる。/アラワレル/，/タスケル/，/ツクル/，/ツケル/，/ハイル/，/ヨブ/ などの動詞や /イイ/，/タカイ/ といった形容詞，/ウデ/，/テ/，/ヒル/，/ミチ/，/メ/，/フトコロ/，/ヤマ/ などの名詞は，どのように並列表記されているのであろうか。

㉗　外国人の犯罪は，比較的露われやすい。（人間の証明　42ページ）

㉘　でも，ジョニーがそばにいては，いつかは私の過去が露われてしまう。（人間の証明　441ページ）

㉙　「（略）そして私には，おまえがどんなトラブルの中にあっても救けてやれる力があるんだ」（野性の証明　357ページ）

㉚　「旦那，救け出すんなら早いほうがいいよ。（略）」（太陽黒点　268ページ）

㉛　「（略）いくら顔を化粧ってても，俺にゃ白粉下の役者の地顔が，髭や皺まで綺麗に見えるんだ」（写楽まぼろし　304ページ）

㉜　「嫂さん，私にまで虚偽らんかてよろしいわ。（略）」（華岡青洲の妻　192ページ）

㉝　道路ぎわに焼け焦げた車の残骸があった。外から来た者が駐車している間に火を放けられて焼かれてしまったのだ。（人間の証明　122ページ）

㉞　石原はみなの視線と興味を集めたところで煙草を点けた。（新幹線殺人事件　164ページ）

㉟　「考えてみれば，むささび小僧は，昨年六月十八日未明平川の部屋に侵入っ

て以後，犯行していません。（略）」（太陽黒点　311ページ）

㊱　森戸は闇の中でほくそ笑んだ。これなら簡単に中に侵(はい)れる。（人間の証明　339ページ）

㊲　タクシー仲間で「一東二中(いつとんにちゅん)」と称(よ)ぶ東名高速および東海道筋と，中央高速経由の八王子(はちおうじ)方面の上客ベスト2にあたれば，今日のノルマは軽く達成できる。（新・人間の証明（上）　5ページ）

㊳　昭和十九年十二月二十二日の夜，森永は，奥山の官舎に夕食に招(よ)ばれた。（新・人間の証明（下）　104ページ）

㊴　目ざめてみれば気分あやしく，病気になったりするので，これは，吉(い)い知らせではない，（略）（新源氏物語（中）　247ページ）

㊵　筋馬券で稼ぐというメリットがあるからこそ，調教師に勧められるままに高価(たか)い馬を買うのです。（極道の恩返し　204ページ）

㊶　平吉は，写楽の特異な画技(うで)に驚嘆した。（写楽まぼろし　300ページ）

㊷　「（略）どなたも浮世絵の古い技法(て)を使っておいでだ」（東京新大橋雨中図71ページ）

㊸　なつかしい，けだかいお筆蹟(て)。（新源氏物語（上）　288ページ）

㊹　私はその女の家に寝とまりして，ここへは晝食(ひる)の辨當をもつて通うてゐるのでございます。（おはん　5ページ）

㊺　あけの日は嘘みたやうに晴れた日でございましてなァ，途中(みち)で土産の外郎(うるらう)買うたりしましてなァ，（略）（おはん　89ページ）

㊻　「信八はね，たしかに眼力(め)は持っているが，惜しいかな，腕は二流です。（略）」（東京新大橋雨中図　124ページ）

㊼　今やお上と官は，自分達の懐中(ふところ)を肥やすためにはなりふり構わず，なんでもします。（極道の恩返し　240ページ）

㊽　「横渡さん，この事件(ヤマ)どうおもいます？」（人間の証明　223ページ）

動詞 /ハイル/ の場合を例として「侵入(はい)る」または「侵(はい)る」が採用された表記過程を考えてみよう。

〈1〉 表記したい語は /ハイル/ である。

↓

〈2〉 この文脈での /ハイル/ の意味は「他人のテリトリーの中に不法に移動する」という意味である。

↓

〈3〉 そのような意味を読み手に伝えるには，一般的・標準的表記形式「入る」では不十分である。

↓

〈4〉 そのような意味をもつ語として「侵入」がある。

↓

〈5〉 「侵入」を /ハイル/ の意味を注釈するために利用する。

↓

〈6〉 したがって，「侵入(はい)る」と表記する。

↓

〈7〉 「侵入(はい)る」でもよいが，/ハイル/ の一般的・標準的表記形式である「入る」と共通する漢字「入」は除外したい。

↓

〈8〉 よって，「侵(はい)る」と表記する。

このタイプの並列表記において，注釈される多義語と注釈するものとに着目すると，前者は語種が和語であり後者は語種が字音語（もしくは字音形態素）であることが分かる。字音語は和語に比べてその意味が外延において小さいため，和語の意味を注釈するのに用いられるのである。字音語が注釈のために用いられること（「侵入(はい)る」，「化粧(つく)る」，「高価(たか)い」，「事件(ヤマ)」など）もあれば，字音形態素が用いられること（「侵(はい)る」，「招(よ)ぶ」，「吉(い)い」など）もある。

このタイプの並列表記が複数の表記主体によって広く用いられ，やがていわゆる「ルビ」の部分がなくても受け容れられるようになれば，つまり個人的・臨時的・一時的なものからより安定化し固定化して市民権を得たものとなれば，「熟字訓」や「異字同訓」の数が増えることになる。これは日本語の表記法の将来にとって大きな問題である。

5. 複合語の並列表記

複合語（動詞連用形からの転成名詞も含む）の並列表記においても，多義語の並列

表記の場合と同様に字音語や字音形態素が注釈のために用いられる。

㊾　「そうか，すまんな。なにせ，この小店の利益(あがり)で一家七人が食っているもんだから，それで精いっぱいなのだ」（東京新大橋雨中図　108ページ）

㊿　（略）姐さんは私のために刺青(いれずみ)を披露してくれたのだ。（極道の妻たち 116ページ）

(51)　その拍子に袖口がめくれて，二の腕の刺青(ほりもの)がちらりと見えた。（東京新大橋雨中図　43ページ）

(52)　（略）工場の往(い)きと復(かえ)りに毎日二度，（略）（塀の中の懲りない面々　194ページ）

(53)　（略）あまり自分の素性や稼業(しのぎ)を喋らずに黙っていると，（略）（塀の中の懲りない面々　146ページ）

(54)　「（略）洗滌と漂白をワンタッチで出来る洗剤を開発して発売したところ，漂白が斑(まだら)な汚点(しみ)になる欠陥が出て来，（略）」（華麗なる一族（中）　428ページ）

(55)　（略）その頃は競馬とは真面目な御交際(おつきあい)だったのです。（極道の恩返し　51ページ）

/アガリ/ を「上がり」と表記するのと「利益(あがり)」と表記するのとでは，確かに語義の特定・明示という点においては並列表記の方が適している。「彫り物」と「刺青(ほりもの)」，「入れ墨」と「刺青(いれずみ)」，「帰り」と「復(かえ)り」，「凌ぎ」と「稼業(しのぎ)」，「染み」と「汚点(しみ)」，「付き合い」と「交際(つきあい)」のいずれにおいても同様のことが言える。しかし，特定の文脈における語義を特定・明示するのに適した漢字表記を選べば選ぶほど，複合語の語構造が分析的にとらえにくくなることも否めない。事実 /タガヘス/ の表記形として「田がへす」や「田返す」よりも「耕す」が固定し市民権を得たために /タガヘス/ の構造が分析的にとらえにくくなったという例がある。

6. 並列表記と語彙教育

以上，第2節から第5節にわたって語の並列表記の種々相を見てきた。本節では本稿のむすびとして並列表記の語彙教育上の意義や問題点を述べることにする。

昭和13年（1938年）12月に出版された『ふりがな廃止論とその批判』（白水社編）

において橋本進吉博士は，ふりがなの効用として次の点を指摘された（同書415ページ～416ページ）。

一、漢字に種々のよみ方のあるのを，いかに讀むべきかを明示して，著者の欲する通りに讀者に讀ませる。卽ち，著者の言葉を最正確に傳へる方法である。

一、通讀を容易ならしめる。（ふりがなのある方が早く讀める事は，心理學の實驗で証明せられたと記憶する。）

一、同一の漢字を人によつて色々によんで言語が不統一になるのを妨ぐ。

一、知らないものに漢字のよみ方を知らせ，又，言葉をどんな漢字で書くべきかを教へる。

これは，ふりがなの教育的意義について早い時期に述べられた傾聽すべき見解である。

同表記別語の並列表記は，外国人が日本語の語彙を習得していくためになくてはならぬものである。もっとも日本語を母語とする者にとっても必要な場合のあることは，第2節で見た通りである。同表記別語に関しては，ぜひとも並列表記を採用すべきであると考える。

「戦争（せんそ）」，「名（なア）」などのような，音節の長短にかかわる並列表記は，日本人が読み手である場合は方言の語形が明示されているということで効果的であろう。しかし，外国人に対してはそれが方言の語形であって標準的な語形ではないことを必ず知らせておかなくてはなるまい。長音・短音の区別を苦手とする者が多いからである。

同表記別語，方言，隠語の類の表記には並列表記か，割り仮名または割り漢字付きの表記が有用であると考えられる。

では，多義語，複合語の並列表記はどうであろうか。日本語を学習中の外国人にとっては有害であろう。このタイプの並列表記は語の一般的・標準的な表記を熟知している者に対して用いられてこそ，はじめて表記主体の狙う表記効果があがるものであるから。

語彙を習得するには，ことに外国語の場合，「語の意味的な有契性」[3] や「語の形態的な有契性」[4] を利用できることが望ましい。多義語を個々の文脈に即して書き分けていくことは，語の意味的な有契性を弱めていくか断ち切っていくことになりかねない。特に和語の習得にあたっては，その多義性を学ぶとともに，各意味に共通した意味，文脈に依存せぬ意味を学ぶことが肝要である。したがって，多義語を漢字で書

き分けることは，多義語の理想的な教育の妨げになると考える。また，複合語を習得する場合に，その語の構成要素の意味が分かり，かつ構成要素間の意味関係が明らかであれば，それがその語の意味を理解する助けともなり，その語を記憶する支えともなる。例えば /ホリモノ/ を「刺青（ほりもの）」と表記するより「彫り物」と表記した方が，この語の形態的な有契性をとらえるのに適している。動詞 /アガル/ の連用形から転成した名詞 /アガリ/ にしても「利益（あがり）」と表記するよりは「上がり」とした方が /アガル/ と /アガリ/ の間の意味的な有契性・形態的な有契性をとらえやすいのではないだろうか。

7. おわりに

等しく語の並列表記とよべるものであっても，表記される語の性格によってその種類をいくつかに分類することができる。本稿ではすべての種類の並列表記をとりあげたわけではないが，その主なものを対象としてそれらを言わば「直列表記予備群」（または「直列表記予備軍」）としてとらえ，語彙教育とのかかわりにおいて，その有用性についての私見を述べた。並列表記のタイプによって，また並列表記を何とのかかわりにおいて見るかによっても，有用・無用の評価が変わってくるであろう。

今後，日本語の表記法について，特に漢字使用の是非・功罪について論議をする場合には，本稿で試みたように，日本語のできる外国人や日本語を学習中の外国人のことをも考慮に入れつつ，一見特殊と見なされがちな表記形式にも目を向けて，それらが用いられる或いは用いられざるを得ない理由をも考究していくべきであると考える。

注

1）参考文献２を参照のこと。

2）参考文献７の44ページ。

3）池上嘉彦（1975）『意味論―意味構造の分析と記述―』（大修館書店）には，「これはある語のある意味は同じ語の他の意味と意味上何らかの関連性があるということである。たとえば，「あし」や leg という語の有する〈机（など）のあし〉という意味はそれらの語のもつ他の意味，〈人（など）のあし〉という意味と位置的，機能的にある種の類似性がある。つまり，それらの語が〈机（など）のあし〉の意味を有しているのは全くいわれのないことではないのである。」（226ページ）という説明がある。

4) 池上嘉彦（1975）には，「これは派生語，複合語の場合に見られるもので，語全体の意味が語の構成する部分の意味によって規定されているということである。たとえば「本箱」とか bookcase のような語では語全体の意味はそれぞれの構成部分（「本」と「箱」，book と case）の意味によって規定されている面が大きく，その意味でそれぞれの語が全体として〈本をしまう箱〉という意味を有しているのはいわれのないことではないというわけである。」（226ページ）という説明がある。

〈参考文献〉

1. 岩淵　匡（1989）「振り仮名の役割」『講座 日本語と日本語教育　第9巻　日本語の文字・表記（下）』明治書院
2. 大島中正（1989）「表記主体の表記目的から見た漢字仮名並列表記形式――いわゆる振り仮名付き表記形式をめぐって――」『同志社女子大学学術研究年報』第40巻Ⅳ
3. 加藤彰彦（1989）「振り仮名の問題」『漢字講座＝11　漢字と国語問題』明治書院
4. 京極興一（1981）「振り仮名表記について」『信州大学教育学部紀要』44
5. 佐竹秀雄（1980）「表記行動のモデルと表記意識」『電子計算機による国語研究Ⅹ』 国立国語研究所報告67　秀英出版
6. 進藤咲子（1982）「ふりがなの機能と変遷」『講座 日本語学　6　現代表記との史的対照』明治書院
7. 玉村文郎（1983）「『懸文字』のこと――文字による重層的表現の考察――」『同志社国語学論集』和泉書院
8. 西尾寅弥（1986）「語の有縁性について」『松村明教授古稀記念国語研究論集』明治書院
9. 細川英雄（1989）「振り仮名――近代を中心に――」『漢字講座＝4　漢字と仮名』明治書院

〈用例の出典〉

安部譲二『塀（へい）の中の懲（こ）りない面々』文春文庫（1989）

_____『極道の恩返し』文春文庫（1989）

有吉佐和子『紀ノ川』新潮文庫（1964）

_____『華岡青洲の妻』新潮文庫（1970）

_____『三婆』新潮文庫（1977）

家田荘子『極道（ごくどう）の妻たち』文春文庫（1989）

宇野千代『おはん』新潮文庫（1965）
城生佰太郎『新訂版　当節おもしろ言語学』講談社（1989）
杉本章子『写楽まぼろし』新人物往来社（1983）
＿＿＿＿『東京新大橋雨中図』新人物往来社（1988）
＿＿＿＿『名主（なぬし）の裔（すえ）』文芸春秋（1989）
田辺聖子『新源氏物語（上）（中）（下）』新潮文庫（1984）
＿＿＿＿『ベッドの思惑』集英社文庫（1989）
森村誠一『新幹線殺人事件』角川文庫（1977）
＿＿＿＿『人間の証明』角川文庫（1977）
＿＿＿＿『野性の証明』角川文庫（1978）
＿＿＿＿『新・人間の証明（上）（下）』角川文庫（1985）
＿＿＿＿『太陽黒点』角川文庫（1988）
山崎豊子（1980）『華麗なる一族（上）（中）（下）』新潮文庫（1980）

（本学専任講師）